出水未来会議
IZUMI FUTURE CONFERENCE

出水の未来を
商店街からつくる

2015.8-2017.3

はじめに

出水市わいわい賑わい商店街づくり事業は、未来の商店街を担う人材発掘と持続可能な事業の計画・実施を目的に、平成２７年度から本市の地方創生先行型事業として始まり、その後、まち・ひと・しごと創生総合戦略のひとつとして継続して取り組んできました。

（一社）鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab に運営を委託し、商店街の活性化の手法を学ぶワークショップ、先進地研修等を通し、「未来会議」の名前が示すように過去に戻るのではなく、未来の（理想の）商店街に近づくためにサポートしていただきました。

この事業の特徴は、単なる計画作りではなく、理想の商店街に向けて商店街の事業者以外の方も入る未来会議のメンバーが事業の企画立案、実行まで行う点にあります。

１年目にも３つの事業が立ち上がり、試行錯誤しながら実施しました。そのような中、商店街に「Rental＆CommunitySpace 文化堂」ができました。商店街メンバーが持っていた構想を未来会議の仲間とともに、一致団結し少ない時間で作り上げ、小さいながらも一歩一歩前に進んでいる姿を見ると商店街の未来が明るくなってきていると思います。

今後も市としてのサポートを継続していきますが、この「未来会議」がどれだけ多くの方を巻き込んでいけるのか、そして、どのような化学反応が起きて、商店街から新たな魅力が生まれてくるのか楽しみにしています。

出水市役所産業振興部シティセールス課

目　次
contents

- 表紙 -

はじめに …… 02

出水本町通り商店街未来会議とは …… 03

２年間の年表 …… 04

１年目の具体的な取り組み …… 08

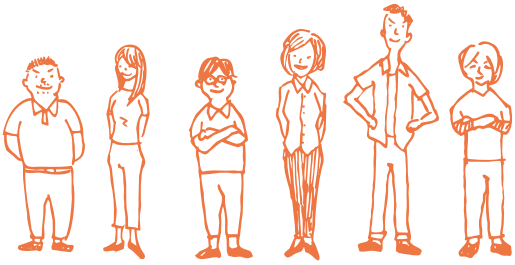
先進地を見て学ぶ …… 09

新たな取り組み『文化堂』復活へ …… 10

『文化堂』を活用した新たな取り組み …… 11

おわりに …… 12

出水本町通り商店街未来会議とは



集まったメンバーは、商店街の人に限らず、民間企業の方、行政職員、主婦の方、大学生等さまざまなメンバーが役職をこえて参加しています。

本町通り商店街の未来をともに考えるために集まった約２０名で取り組みがスタート。
初年度は、今後の商店街について語り合う場をつくり、未来の商店街をともにつくる人材を発掘すると同時に、持続可能な事業の計画・実施に取り組むことを目的に全5回のワークショップを開催しました。

ワークショップ全体の目的

- ▶ 自分を取り巻く地域や商店街の課題を深く考える
- ▶ 取り組みをともに実践する仲間をつくる
- ▶ 取り組みを持続させる仕組みをつくる

ワークショップ

第１回 商店街の理想の未来と、大切にしたい価値観を共有する

▼

第２回 課題や困りごとの原因を掘り下げ、解決策を考える

▼

第３回 いまある資源活用のアプローチについて考える

▼

第４回 自分が当事者として取り組むことのできる小さくても具体的な一歩を見つける

▼

第５回 約３か月間で実践する取組を決める

↓ 実践期間

実践報告会

1年目の取り組み

参加型のワークショップを通して、商店街活性化を考える上で必要となる論理的思考と事業計画の進め方を習得すること。さらにゲスト講師による講演や実践期間を通して、より学びが深まるものとなり、最終的には参加者自身の事業での活動につなげる契機となることを目的として進めていきました。

第1回ワークショップ

ワークショップ全体の目的を確認し、まちや自分たちの未来について思いをはせたときに描く理想の未来と大切にしたい価値観を考え、共有する時間をつくりました。

第3回ワークショップ

地域の資源やコンテンツをとにかくたくさん付箋に書き出すことで可視化できる状態をつくり、そこからさらに活用についてのアイデアを見つけていく作業を行いました。

2015.8

第2回ワークショップ

まち・商店街での課題や困りごと、その原因は何かを論理的に整理し、課題に対する解決策や取り組み案を考えていきました。

2015.9

第4回ワークショップ

具体的なターゲットを決め、それに対する活用資源の整理と解決したい課題、取り組むこと、チーム内での役割分担を整理しました。

第５回ワークショップ

約３か月間で取り組むことの軸について「やりたいこと・できること・求められること」をもとに整理・確認し、これまでの振り返りと今後の実践に向けての意識確認を行いました。

フォトコンテストの優勝者には本町通り商店街の「花のよしおか」より商品の贈呈を

第１回商店街の小さなマルシェを開催。さまざまな店舗や作り手が本町通り商店街に集結！

いいものはたくさんあるのにその情報が十分に届いていないという課題について議論を重ねる。

※実践期間の具体的な取り組みについては8pを参照

←　実践期間　→

2015.10　　2016.2

実践報告会

各チームの取り組み状況を確認し、全体からフィードバックをもらうことでさらに取り組みを前進させるものとする時間をつくりました。

2年目の取り組み

初年度の取り組みを踏まえ、今後も出水本町通り商店街未来会議という場（コミュニティ）を通して、ゆるやかに人が関わりあえる環境づくりを行うこと。そして持続可能な取り組みを進めていくため、鹿児島県内外の講師陣より学び、小さくてもまずは行動に起こしながら活動していくことを目的として進めていきました。

- まちと暮らしの未来をかたる -

出水市商店街まちづくりフューチャーセッション

初年度に実践した取り組みについて、鹿児島県内外の講師陣とまちのヒトが集まって未来の商店街やまちについて考える機会をつくりました。基調講演講師として宮崎県日南市油津商店街テナントミックスサポートマネージャー / 株式会社油津応援団取締役の木藤亮太氏より、油津商店街での取り組みをご紹介いただきました。また初年度の実践報告を行い、それらについて今後進めていく上でのブラッシュアップワークショップを行いました

2016.7

頴娃視察訪問

鹿児島県南九州市頴娃町での観光まちづくりについて、NPO 法人頴娃おこそ会の加藤潤さんにガイドしていただきました。小さく始まった取り組みから人をつなげ、地域をつなげ、未来につながる動きが起こっていることを感じる視察訪問となりました。

2016.8

2016.10

第2回 商店街の小さなマルシェ

今回はハンドメイド・雑貨等（14 店舗）、飲食関係（7店舗）合計21店舗の出店となりました。小規模なイベントですが、500名以上の動員があり、老若男女が集まる一日となりました。

空き店舗の改装作業スタート

平成 28 年 8 月に開催した未来会議のなかで出てきた「空き店舗活用」のテーマをきっかけに、空き店舗を商店街若手メンバーでお金を出し合い借りることとなりました。
そこからは未来会議メンバーで協力しあいながら約 2 か月間かけて改装作業。
どのように活用していくか、内装はどうするか等、試行錯誤しながら進めていきましたが無事形になっていきました。
夜な夜な明かりが灯り数名が作業をしている姿を見たまちの人から「ここは何ができるの？」という声も多く聞かれたため、しっかりお披露目の場を持とうということで、平成29年1月29日に「Rental＆Community Space 文化堂」としてオープニングイベントを開催しました。

「Rental&CommunitySpace 文化堂」
オープニングイベント

2017.2

鹿屋視察訪問

鹿児島県鹿屋市で活動する民間のまちづくり会社「大隅家守舎」の川畠康文さんの案内のもと、鹿屋視察を行いました。毎月第 4 日曜日に開催しているマーケット「食と暮らしのマルクト@おおすみ」やここ 1 ～ 2 年でオープンしている新規店舗（セレクトショップや大隅半島の素材を使った美味しいグルメ）等、「まちの期待値を上げ、空気感を変える」そのために“鹿屋のファンづくり”をやっていく、それを基本方針として動き出す鹿屋から学ぶものが豊富にあった一日となりました。

理想の商店街

あきない（商い・飽きない）商店街

具体的な取り組み

情報発信チーム

取り組み

▶Google Map への情報掲載
▶SNS の活用
▶Web サイトの作成
▶イベントの取材、写真撮影

目的

商店街にある店舗、品物等、素材はあるがあまり知られていないことやインターネットで調べても情報があまり出てこないため、ネット・SNS を活用した情報発信を行うことで商店街の魅力を発信すること。

気づき・課題

▷取り組む中でターゲットが見えてきた。（「商店街の小さなマルシェ」の開催から、今後の商店街を考えたうえで" 子育て世代の親御さん" をターゲットとして置くことに決めた）。▷ターゲットに合わせ Web サイトに掲載すべき情報の選定。

個店の魅力開発チーム

取り組み

▶商店街店舗、ハンドメイド作家、飲食店等を集めたマルシェイベントの企画・運営

目的

商店街の店舗や場所にこれまでになかった「色合い」を加えることで、ターゲット（30 代女性とその家族）に身近に感じてもらい、まずは商店街に足を運んでもらう機会を創出すること。

気づき・課題

▷告知や会場の雰囲気づくりに女性目線の意見を取り入れることで、よりターゲットの興味をひく内容となった。▷ただイベントを開催するのではなく、取組への想いや方向性も同時に発信していくことの重要性。▷間はかかっても皆で共有しながら進めていくこと。

出水の魅力再発掘チーム

取り組み

▶インスタグラムを使った気軽に参加できるフォトコンテストの企画・開催

目的

テーマ付のフォトコンテストを開催することで、あまり知られていない出水の地域資源発掘及び情報発信をしてもらうこと。優勝者には本町通り商店街の名品をプレゼントすることで商店街の良さを知ってもらうきっかけにつなげる。

気づき・課題

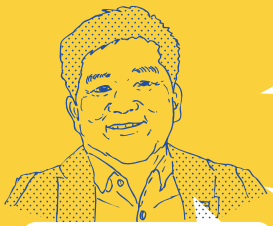
▷知らなかった出水の資源を知る機会となった。▷本町通り商店街としての魅力の発信をもっと積極的に行うべきだった。▷お金をかけずにできる情報発信ツールをどんどん活用していきたい。

先進地の事例を見て、学ぶ

宮崎県日南市

日南市油津商店街テナントミックスサポートマネージャー
株式会社油津応援団取締役

木藤亮太氏



次世代のために
何をどう残していくかを
常に考えています。

商店街の店主に限らず、
周辺地域の若者や女性を
巻き込み、まちづくりの
チームのような関わりを。

商店街は“人が育つ場所”
自走できるまちづくりを
目指しています！

応援団といっても一部の人たちが集中しているのではなく、子どもたちから中高生、大学生、生産者さん、奥様方、年配の方と本当に幅広くまちの人を巻き込んでいるのはすごい！

いかに自走していくか、未来会議でもその形を模索したいと思った。

鹿児島県南九州市頴娃町

NPO 法人頴娃おこそ会
観光プロジェクトリーダー

加藤潤氏

人を巻き込むポイントは、
相手がやりたいことを
お願いすることが大切！
得意なものがマッチするといい。

何をやってもダメの
マイナスから、
もしかしたらできるかもの
”期待感の継続”
⇒「この商店街で
何かできるかも！」

きっと大変なこともたくさんある中で、だけど取り組んでいる本人たちがとても楽しんでいる姿が印象的だった！だからこそ、物事がどんどんプラスに連鎖していっているのかも。

「小さく生んで、大きく育てる」ことの大切さ。地域おこしも改めて、「小さく」が大切だと感じた。

鹿児島県鹿屋市

株式会社プラスディー設計室代表取締役室長
株式会社大隅家守舎代表

川畠康文氏

まちの衰退の原因はまちに求められている価値が変化したから。新しいまちの価値を生み出し、ファンづくりを進める。

「リスクを取れる人が自然に生まれるまちへ」まちの期待値をあげ、空気感を変える。そのためには"鹿屋のファンづくり"を！

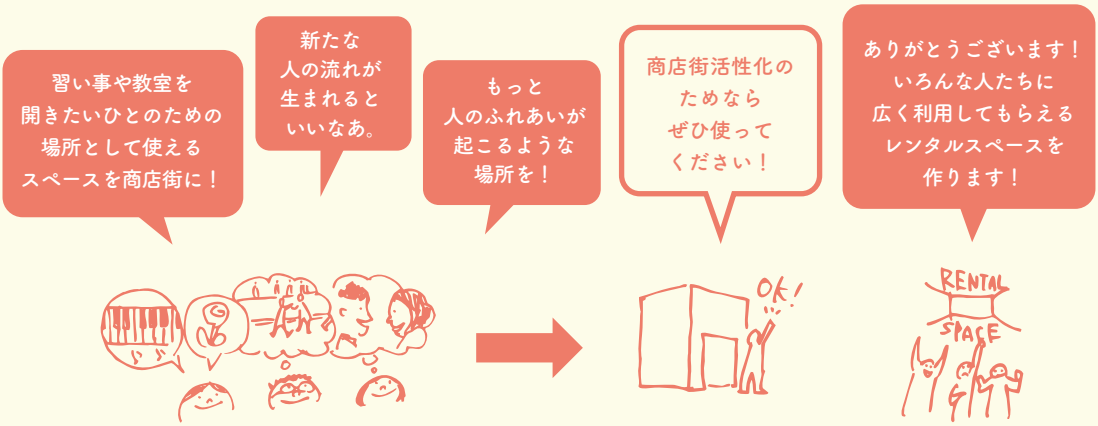
デザインにちゃんとお金をかけることの大切さを感じた。

まちづくりにもお金が必要。だからこそ稼ぐまちづくり、リスクを取れる人の存在は重要だと思った。

「絶対成功する」という確信のもとで動くのではなく、まずはやってみることに意味を感じて動き出すことの重要性を感じた。

空き店舗をかりることになったきっかけ

商店街メンバーから出てきた声をきっかけに、未来会議の活動及び想いに共感してくださったオーナーさんとの出会いがありました。



みんなで改装作業スタート

改装作業は、建築が専門のメンバーを中心にこの場をどのように使っていくか、どんなことを大切にしたいかをすり合わせながら作業を進めていきました。
未来会議メンバーに限らず時には外からの協力もいただきながら、それぞれ『できること』を持ち寄ってつくりあげた「Rental&CommunitySpace文化堂」ができました。

Before

After

「Rental&CommunitySpace 文化堂」のコンセプト

文化堂を活用して
こんな未来を
描いていきたい！

街会室 -まちあいしつ-

人と人とが出会い、
新しい何かが生まれ、
大切な思い出ができる場所

自分たちの活動を発信していくための拠点としての役割や、出水市内外のみなさんに気軽に足を運び使ってもらえる場所としてあることで、商店街のなかに今までなかったようなアイデンティティを生みだしていく。

文化堂のロゴに込めた想い

元レコード店で“出水の音楽文化の発信地”とも言われていたまちの人にとっての思い出が詰まった場所「文化堂」の名前は残したい、そして私たちが創っていくこれからの文化堂への想いが表現されているロゴデザインをつくりたいということで、初年度から会議等のサポートの協力をいただいているデザイナー「コトカキ屋」の小笹さんにデザインをお願いしました。

水引の「鮑結び」

この結びは解くのが難しく、両端を持って引っ張るとさらに強く結ばれることから、「末永くつき合う」という意味ももつことから、地域のゆるやかなつながり（多様な人がこの場に気軽に訪れ、つながる場）となることへの願い。

『文』という漢字が持つ二つの意味

「表円的には見えないがたどると見えてくる社会や世の中の入り組んだ仕組み」
▷この場で起こる幸せなつながりが、地域全体のつながりをつくっていってほしいと願い

「仁徳（他人に対する思いやりの心）」
▷この場で交流する多世代の人たちが、相手を思いやる心であふれるようになってほしいという願い

文化堂を活用したイベントの開催

2017.1.29
「Rental&CommunitySpace 文化堂」オープニングイベントを開催

新たな文化堂のお披露目と、まちの人に出水本町通り商店街未来会議の道のりと文化堂に込める想いを伝え、今後への期待感を持ってもらえるような一日をつくるためにオープニングイベントを開催しました。おかげさまでたくさんの方に足を運んでいただき、企画していた立食パーティー、革小物ワークショップ、諏訪書店の絵本読み聞かせ、バンドによるスペシャルライブ等、最後まで楽しんでいただける時間となりました。

2017.2.4
出水麓武家屋敷群と商店街が舞台の節分イベントを開催

季節の行事の一つである「節分の豆まき」を商店街に限らず、麓街なみ保存会と連携して竹添邸～鬼坂～文化堂までの道のりを舞台に節分イベントを開催しました。30名近くのお子さんがちびっこ鎧に着替え、いざ鬼退治に！商店街の協力店舗には「福は内」、鬼を見つけたら「鬼は外」！商店街の方々も喜んでいただき、参加者からも来年も開催してほしいという声をいただきました。

レコードを展 文化堂 金曜午
商店街活性化へ発信拠点
地元の若者グループ

平成 29 年 2 月 2 日掲載

子ども侍が鬼退治

平成 29 年 2 月 6 日掲載

南日本新聞さんに
掲載いただきました！

おわりに

私がはじめて商店街に足を踏み入れてから、約２年と３か月が経ちました。
この事業に関わる中で私が心から感謝していることは、"私" を受け入れてもらえたこと。そして "生きるように働く" そんな関わり方を受け入れてもらえる感覚がありました。

まちを想い、自分たちの暮らし、そして未来の子どもたちのために何ができるか。

大切にしたい価値観も、関わり方も、みんなそれぞれ自分の暮らしがあって、感情だって一瞬一瞬変化する。だからこそいろんな形があっていいんだ、それを受け入れられるゆるやかなコミュニティがあることが希望なんだとやっていく中で気づかされることが本当にたくさんありました。

あーでもないこうでもないと言い合いながらも、ともに進めていける小さなコミュニティがあることはまちの未来をつくる小さな希望であり、それを守り続けていくことが大切だと今は感じています。さらにそこからまちで挑戦する人が増えていく、そんな空気感をつくっていきたいと考えています。

そのために私自身も生きていく上で何を大切にしたいかを対話し続けながら挑戦者の一人として走り続けていきたいと思っています。
「出水の未来を商店街からつくる」

まずは商店街から。広がる輪をみんなで楽しみながらまちづくりに取り組んで参りますので、今後も出水本町通り商店街未来会議へ出水市民の皆さんのご助言ご協力をよろしくお願いいたします。

商店街活性化アドバイザー業務事業コーディネーター
鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab 理事 / 事務局長

飯福あすみ

「出水の未来を商店街からつくる」 出水本町通り商店街未来会議

事業名	わいわい賑わい商店街づくり事業
実施・運営	一般社団法人鹿児島天文館総合研究所 Ten-Lab
デザイン	コトカキ屋

出水の未来を
商店街からつくる

2015.8－2017.3